

新虎通り沿道の既存ビルに巨大壁面アートが登場

TOKYO MURAL PROJECT 始動

～新橋・虎ノ門エリアのシンボルストリート「新虎通り」から世界に新しい文化を発信～
初回は、国際的に活躍する日本人アーティストの作品を紹介

森ビル株式会社が企画・運営する「TOKYO MURAL PROJECT」が、この度スタートしました。新虎通り沿道の既存ビルの壁面にアート作品(ミューラル)を描く本プロジェクトで、このエリアを、多様な人々が出会い、新しいアイデアが創発される場にすることを目指します。

新虎通りは、当社が「国際新都心・グローバルビジネスセンター」形成を目指して都市づくりを進める虎ノ門ヒルズエリアのシンボルストリートです。2014年3月の開通以来、新店舗の開店や周辺の再開発が進み、また、エリアマネジメント組織の主導により、通りや沿道を活用した様々なイベントも開催されています。

本プロジェクトは、海外企業の日本進出を支援するアンカースター株式会社、Makeshift株式会社、BnA株式会社と共同で企画。世界で活躍するアーティストを招聘し、世界の都市で観光コンテンツとしても注目を集めているミューラル(既存のビルの壁面や建造物をキャンバスにアーティストが制作する公共アート)を通じて、このエリアにさらなる賑わいを創出します。

初回となる今回は、日本のミューラルを代表するアーティスト、SALとJonjon Greenが、「SPIRAL」をコンセプトに、『イノベーティブな人々を巻き込みながら、新虎通りから新しい未来が生まれて行くこと』を表現する作品を制作。**高さ約33メートル、幅約27メートル**のビル壁面に巨大な壁面が登場します。なお、本プロジェクトは、内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部事務局の委託により、平成29年度オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査として実施しています。



TOKYO MURAL PROJECT 2017 概要

主催：森ビル株式会社

プログラム企画：アンカースター株式会社、Makeshift株式会社、BnA株式会社、森ビル株式会社

協力：日本キャタピラーグループ 東京レンタル株式会社

制作場所：新虎通り カザマビル南側・西側壁面(東京都港区西新橋2丁目19-5)

制作日程：2017年10月1日(日)～20日(金)

当社は、東京の新しい魅力を世界に発信するべく、今後も様々なパートナーとのコラボレーションを通じて、新虎通り沿道に継続的に作品を設置、アートを通じて虎ノ門ヒルズエリアを活性化し、世界中から人々が集う、磁力ある都市づくりに取り組んで参ります。

◇本リリースに関するお問合せ先◇

森ビル株式会社 タウンマネジメント事業部
担当：山崎、渡邊、山村
TEL:03-6406-6350 FAX:03-6406-6483

株式会社プラップジャパン
担当：中野、天下谷(あまがい)、須藤
TEL:03-4580-9101 FAX:03-4580-9127

アーティスト情報

SAL 《つむじ風(tsumuji-kaze/Whirlwind)》

1970 生まれ。ペインター。

主に自然の事象からヒントを得て、ものの本質を追う。
主観的な立場からひらめきを拡げるが、デザイン化することで、
観る人に自由なイメージを与えている。

<http://www.ilooli.net/>

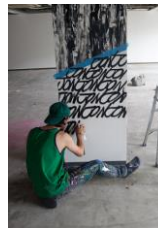


JONJON GREEN by Youta Matsuoka 《COLOR Flowing》

1978 年生まれ。ペインター、グラフィックデザイナー、表現者。

現在までに日本、アメリカ、シンガポールで、SUMMERSONIC や
METAMORPHOSE などの野外フェスでのライブペイント、UNIQLO
PAPER への作品提供、飲料水パッケージなどへの作品提供、
建築物への壁画制作など多岐にわたる活動が続ける。

<https://www.jonjongreen.com/>



関係者コメント

森ビルは、虎ノ門ヒルズエリアに「国際新都心・グローバルビジネスセンター」を形成し、このエリアの価値や、東京の磁力を高めるべく、様々な取り組みに挑戦しています。そして、このエリアの軸となる「新虎通り」を、多くの人々が行き交い、新しいアイデアが生まれる、賑わい溢れる通りにしたいという思いのもと、行政や地域の皆さまとともに本プロジェクトを推進してきました。TOKYO MURAL PROJECT を通して、“東京の新しい魅力を伝えるシンボルストリート”新虎通りから、このエリアを活性化し、世界中から人々が集う、磁力ある都市づくりに取り組んで参ります。

小笠原正彦(森ビル株式会社常務取締役執行役員)

現代ではアートは美術館やギャラリーに収まっているだけでなく、街の中にも進出し始めています。表現も多様化し、パフォーマンスやワークショップ、メディアアートからバイオテクノロジーまで多岐に渡っています。建物の外壁に描く大型絵画(ミューラルペインティング)も、日常生活に新たな体験を作り出します。

TOKYO MURAL PROJECT は、そんな東京ならではの、新しいチャレンジです。新虎通りを舞台に、ミューラルを手掛けるアーティスト、地域の皆さんや遠来の観客などが一体となり、このプロジェクトを通して新しいコミュニティが生まれたいと思っております。そのクリエイティビティが、都市に新たな力を与えるでしょう。

南條史生(森美術館館長)

海外では街中で見られる、様々なビルの壁面に描かれるミューラル。その街が持っているエネルギーを肌で感じることができ、迫力あるアートです。TOKYO MURAL PROJECT は、東京にもミューラルがあるシーンを実現したい、熱い思いを持った仲間たちが集い、ついに最初の一步を踏み出しました。エリアの皆さまの応援を力に、数々のチャレンジを乗り越え、地上 30 メートルの壁に最初の筆が入った瞬間、1 年以上かかった準備期間の苦労が一気に吹っ飛びましたね。ミューラルがある風景は、写真や動画など、様々な形で世界中に伝播していきます。東京にもミューラルが描けるんだということ、世界中のアーティストが知り、東京をキャンバスに活動するクリエイターが増えていくことを、今からとても楽しみにしています。

児玉太郎(アンカースター株式会社代表取締役)

MURAL(ミューラル)について

「MURAL(ミューラル)」とは、街にある既存のビルの壁面や建造物をキャンバスにアーティストが制作する公共アートです。ストリートカルチャーをルーツにもつシンプルかつダイナミックなこの新しいアートフォームは、昨今、世界各地の大都市からローカルタウンまでそれぞれ様々な目的をもって歓迎され、広く浸透し始めています。ニューヨーク、ベルリン、モントリオール、シカゴ等多くの都市ではすでに、観光のコンテンツとして認められ、自治体が積極的に制作の補助や維持、作品の紹介が行われて、成功を収めています。